

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	シーガル梅屋敷			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日 ～ 2026年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日 ～ 2026年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者数に見合った人員を配置するよう心がけていること	スタッフの数やスキルに応じて、対応可能な利用者数の受け入れになるように受け入れるよう、管理者とスタッフが共通認識を持っている。 対応が難しい事態が生じた場合には、他の事業所から応援をもらうなどの協力体制を作っている。	お子さんへの対応の質を向上できるよう、スタッフの持っているノウハウの共有やスキルアップにつながるような研修の企画などを行っていく必要がある。
2	事業所内のみではなく、公園や児童館をはじめ事業所外での活動を積極的に行っている。	「このお子さんは外の方が歩いてくれる」「このお子さんを他のお子さんがいる環境に連れて行ってあげたい」など外に行くことでいい結果につながることをスタッフが共有している。	重心のお子さんが外出しやすい行先の開拓や、外部のNPOやボランティアサークルなどと協力して事業所内では体験できないプログラムを作っていけるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の開催など事業所が主体となって実施するイベントの開催ができていない。	土日を開催する方が参加者が参加しやすいと考えられるが、事業所は土日祝日閉所しているため、イベントを開催する場合人員の調整を行う必要がある。 スタッフの勤務時間を短めに設定しているため、準備や企画に必要な時間の確保が課題となる。	オンライン開催など、運用スタッフを削減したうえで開催できる方法を検討して実施できないか検討をしていく。
2	プログラム運営のために必要な打合せ時間について、さらに時間の確保が必要。	時間外のお子さんお受け入れ対応など、必要な支援の結果であるとも考えられる。 職種ごとのショートミーティングなどは現在も行っているが、全体でその結果を共有できていない可能性がある。 定期的な開催というよりも必要時に集まる形にしているため、開催期間が開いてしまうことがある。	月頭など決まった時期に職種ごとや全体でプログラムの運用方法に関するミーティングを開催するなど、定期的に開催して方針を共有できるように体制を整えていく。